2011

(2011.1～2011.12)

平成 23 年

Japan River Restoration Network

Annual Report

日本河川・流域再生ネットワーク　活動報告

落合川（東京都東久留米市）

Japan River Restoration Network

日本河川・流域再生ネットワーク

http://www.a-rr.net/jp/

ビジョン（Vision）

人々の出会いと誇りに支えられた良好な河川の保全・再生が創り出す、健全な水循環系及び歴史・文化と共存する地域社会の実現を目指します。

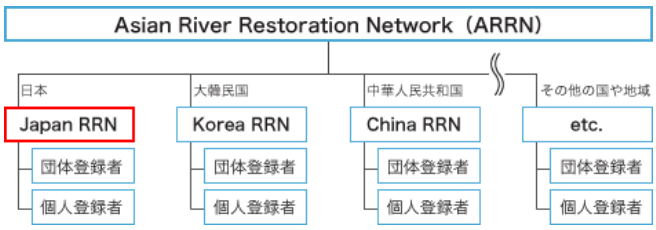
使命(Mission)

日本を含むアジアにおける河川再生の担い手の出会いの広場（横断的な連携基盤）を構築します。

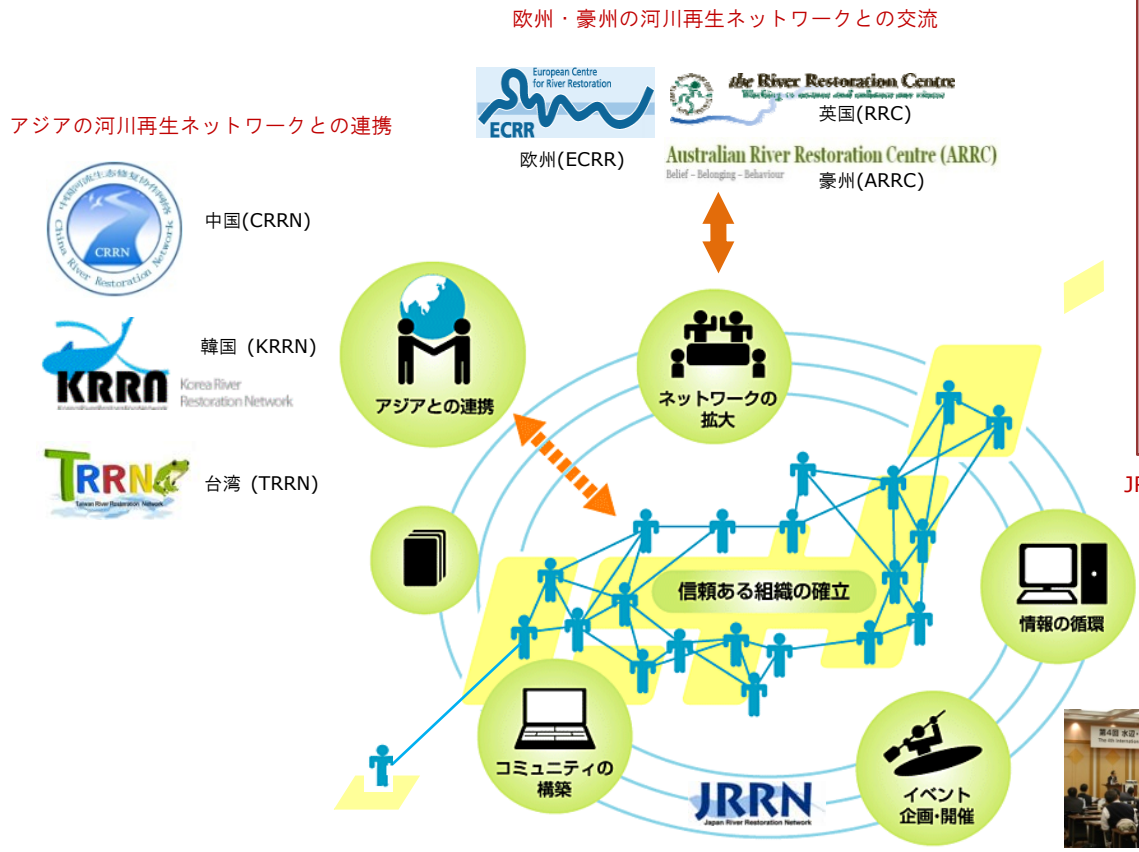
What's JRRN?
JRRN とは？

「**日本河川・流域再生ネットワーク**（JRRN）」は、河川再生に関わる事例・経験・活動等を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に 2006 年 11 月に設立されました。

また、日中韓を中心に活動する「**アジア河川・流域再生ネットワーク**（ARRN）」の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、同時にアジアの素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担います。



JRRN's Activity
活動内容



JRRN ホームページによる情報循環

JRRN 主催イベントでの会員交流

目 次 (Contents)

- JRRN（日本河川・流域再生ネットワーク）からのご挨拶..... 1
- JRRN 活動報告 2011 2
  - 活動一覧（2011 年 1 月～2011 年 12 月）
  - 情報共有基盤の整備（ウェブサイト）
  - 情報発信（ニュースメール・ニュースレター）
  - 会員交流機会の提供（JRRN 河川環境ミニ講座）
  - 技術交流（研修受入、意見交換会）
  - 調査研究 及び 出版
  - 組織運営 及び 広報
- ARRN（アジア河川・流域再生ネットワーク）活動報告 2011..... 10
  - ARRN 概要紹介
  - 情報交換及び交流活動（国際フォーラム等）
  - 技術整備（河川再生ガイドライン構築）
  - 組織運営（運営会議・委員会活動）
- JRRN 組織概要..... 16
  - 会員構成（2011 年 12 月現在）
  - 会員サービス

黒目川（埼玉県朝霞市）

JRRN（日本河川・流域再生ネットワーク）からのご挨拶

日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）事務局長
佐合 純造

JRRN は 2006 年に発足して５年余となりました。JRRN は、国内外の河川再生の話題を情報提供する「ニュースメール」、意見交換の場でもある「ニュースレター」の刊行、河川環境ミニ講座の開催、海外からの視察団受け入れ支援、また、河川再生のガイドライン作成、事例の収集・分析、学会への参加などを行っています。これらに加えて、JRRN では発足以来、ARRN（アジア河川・流域再生ネットワーク）事務局として日中韓を中心とした河川再生の情報交流に貢献しています。

この 1 年の活動では、2011 年 3 月には「よみがえる川～日本と世界の河川再生事例集」を新たに発刊、さらに、今年２月には日中韓共同で既に作成した「アジアに適応した河川環境再生の手引き」のバージョンアップ版（Ver.2）を公開しました。また、2011 年 11 月には４年ぶりに東京で ARRN 運営会議と国際フォーラムを開催しました。JRRN の会員は現在、個人が約 540 名、団体が約 40 団体であり、順調に増加しています。

ところで、日本は 2011 年 3 月の東日本大震災により、甚大な被害を受けました。被災地の皆様には心からお見舞い申し上げるとともに早期の復興をお祈り申し上げます。

私たちはこの大災害から自然の猛威は人間の力ではとても制御できないことを実感しました。しかし、一方では、自然は多くの恵みを与えてくれており、人間にとってかけがえのないものです。このため、日本では昔から人々は繰り返し起こる災害の中でも、自然と共生しながら生活してきました。寺田寅彦はこのことを「厳父の厳罰」と「滋母の慈愛」にたとえています（天災と日本人（角川ソフィア文庫）より）。しかし、近年の科学技術の進歩は、人間はどんな自然も制御し征服できると思い上がったようです。

河川においても近年、治水・利水のため効率的に川を制御するため、堤防、護岸、ダムなどがつくられてきました。しかし、この 20 年来、河川の親水、景観、生態などの機能が見直されて、これらに配慮した川づくりなど「河川再生」が行われるようになりました。

しかし、今回の大災害で、「より高い堤防、より強固な護岸づくり」など防災重視の整備にシフトしつつあるように思えます。これはやむを得ないことかもしれませんが、目先のことだけでなく、これからの長い人類の持続的生存のことを考えると、様々な自然の機能を評価して自然と共生した整備をいかに進めるかが重要であると思います。また、これが本来の「河川再生」につながるのではないでしょうか。

JRRN では引き続き、価値ある情報提供や技術交流の支援等から河川再生の発展に貢献できるように努力していきますので皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

和泉川（神奈川県横浜市）

JRRN 活動報告 2011

活動一覧（2011 年 1 月～2011 年 12 月）

2011 年（平成 23 年）は、JRRN 及び JRRN が事務局を担う ARRN として、以下の様な活動に取組み、またその成果を国内外に広く普及することに努めました。

月　日	活動の種類	活動内容	開催場所
1 月 5 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2011 年 1 月号(**Vol.43**)　発行	-
1 月 7 日	調査研究・出版	「アジアの河川再生技術共有に向けたラウンドテーブル会議討議録」 発行	-
1 月 11 日～13 日	技術交流・支援	「中国湖北省水利庁視察団」技術交流会開催　及び　現地視察支援	日本（東京）
1 月 18 日	調査研究・出版	「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1 別冊事例集」 発行	-
1 月 28 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2011 年 2 月号(**Vol.44**)　発行	-
2 月 10 日～21 日	組織運営・広報	「第 1 回 JRRN 会員向けアンケート調査（CS 調査）」実施	-
3 月 1 日	組織運営・広報	「JRRN 年次報告 2010」　発行	-
3 月 3 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2011 年 3 月号(**Vol.45**)　発行	-
3 月 31 日	調査研究・出版	「よみがえる川～日本と世界の河川再生事例集～」 発行	-
3 月 31 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2011 年 4 月号(**Vol.46**)　発行	-
4 月 28 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2011 年 5 月号(**Vol.47**)　発行	-
4 月 16 日	情報発信	JRRN ニュースメール **400 号**　達成	-
5 月 23 日	調査研究・出版	「第 7 回 JRRN 河川環境ミニ講座講演録～台湾の河川事情～台風被災からの教訓と治水対策」 発行	-
5 月 30 日	技術交流・支援	「世界銀行主催・地方政府リーダーシップ研修」支援	日本（東京）
6 月 3 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2011 年 6 月号(**Vol.48**)　発行	-
6 月 20 日	調査研究・出版	「桜のある水辺風景 2011 写真集」 発行	-
6 月 28 日～7 月 9 日	組織運営・広報	「第 2 回 JRRN 会員向けアンケート調査（よみがえる川）」実施	-
6 月 30 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2011 年 7 月号(**Vol.49**)　発行	-
7 月 23 日～24 日	組織運営・広報	「2011 年度・河川技術に関するシンポジウム」　参加・論文発表	日本（東京）
7 月 29 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2011 年 8 月号(**Vol.50**)　発行	-
7 月 29 日～8 月 3 日	組織運営	2011 年第 1 回 ARRN 技術委員会　Email 協議開催	-
8 月 4 日～9 日	組織運営	2011 年第 1 回 ARRN 情報委員会　Email 協議開催	-
8 月 26 日	技術交流・支援	「台湾市民大学全国促進会視察団」技術交流会 開催	日本（東京）
8 月 31 日	交流機会提供	「第 8 回 JRRN 河川環境ミニ講座～韓国と日本の魚道整備(講師:Jin-Hong Kim 氏・小川豪司氏)」　開催	日本（東京）
9 月 1 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2011 年 9 月号(**Vol.51**)　発行	-
9 月 15 日	組織運営・広報	「第 9 回 日韓セミナー：エコシステムアプローチによる河川・流域の自然復元」　参加・論文発表	日本（金沢）
10 月 3 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2011 年 10 月号(**Vol.52**)　発行	-
10 月 5 日～	組織運営	2011 年第 2 回 ARRN 技術委員会　Email 協議開催	-
10 月 18 日	組織運営	2011 年第 2 回 ARRN 情報委員会　Email 協議開催	-
10 月 21 日	調査研究・出版	「第 8 回 JRRN 河川環境ミニ講座講演録～韓国と日本の魚道整備」 発行	-
11 月 1 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2011 年 11 月号(**Vol.53**)　発行	-
11 月 7 日	情報発信	JRRN ニュースメール 450 号　達成	-
11 月 11 日	組織運営	「第 6 回 ARRN 運営会議」　開催	日本（東京）
11 月 11 日	交流機会提供	「第 8 回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム～減災と環境保全の視点から都市河川再生を考える」　開催	日本（東京）
11 月 12 日	交流機会提供	「埼玉県黒目川における河川再生技術交流会」　開催	日本（埼玉）
12 月 1 日	情報発信	JRRN ニュースレター 2011 年 12 月号(**Vol.54**)　発行	-
12 月 22 日	交流機会提供	「第 9 回 JRRN 河川環境ミニ講座～中国における河川生態系の変化と自然再生の動向（講師：李建華 氏）」　開催	日本（東京）
12 月 28 日	調査研究・出版	「第 8 回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム講演録」 発行	-

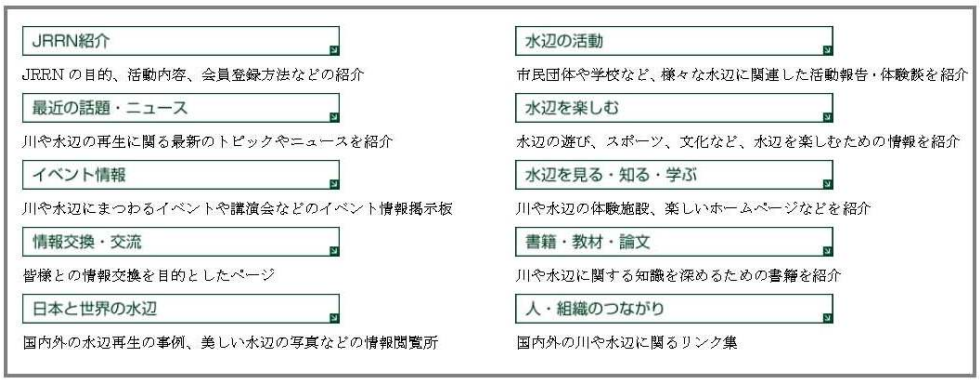
情報共有基盤の整備(ウェブサイト)

JRRN では、河川再生に取り組む人々が、互いに役立つ情報を提供・交換できる仕組みづくりを目指し、その手段の一つとしてウェブサイトの充実に取り組んでいます。

JRRN ウェブサイトでは、JRRN 活動報告に加え、河川再生に関連した国内外のニュース・河川再生事例・地域活動・専門技術・書籍・論文・遊び等々の様々な情報を日本語と英語で紹介しており、2011 年 12 月時点で一日平均 2,200 件近いアクセス数（2009 年同時期の約 1.8 倍）となっています。

また、JRRN は、ARRN 事務局として ARRN ウェブサイトの運営管理も担っており、2011 年 10 月には、ARRN から日本(JRRN)、中国(CRRN)及び韓国(KRRN)への相互リンクも実現しています。

国内外での迅速かつ恒久的な情報共有に向けては、ARRN ウェブサイト及びそこから繋がる各国内ネットワーク(JRRN, CRRN, KRRN)のホームページが重要な役割を果たすため、アジアで No.1 の河川再生分野の情報媒体を目標に、引き続き JRRN 及び ARRN ウェブサイトの充実化を図って参ります。



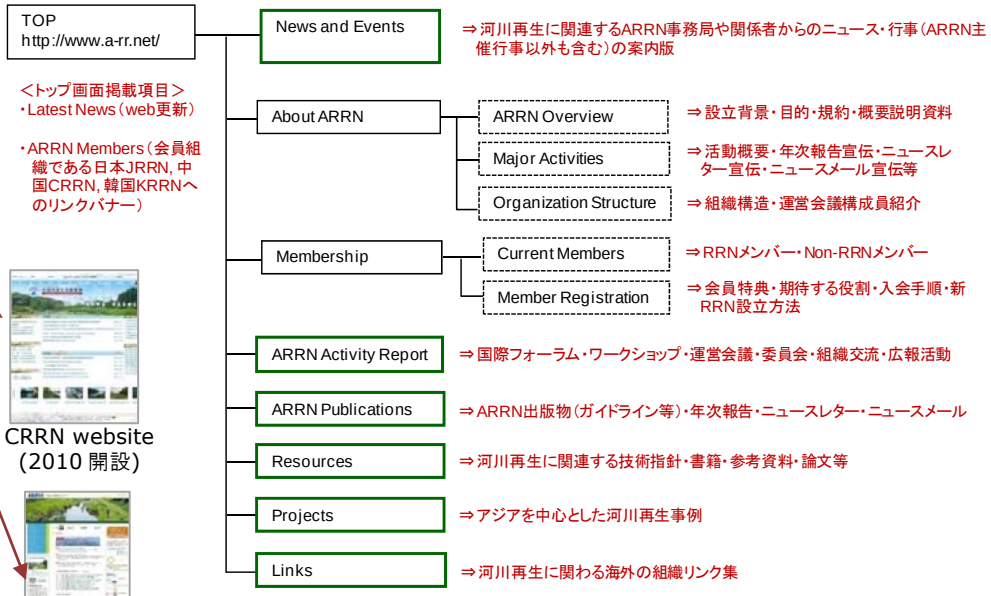
JRRN ホームページ URL: http://www.a-rr.net/jp/

ARRN website(2010 開設)

CRRN website
(2010 開設)

JRRN website
(2007 開設)

KRRN website
(2011 開設)



ARRN ウェブサイト URL: http://www.a-rr.net/

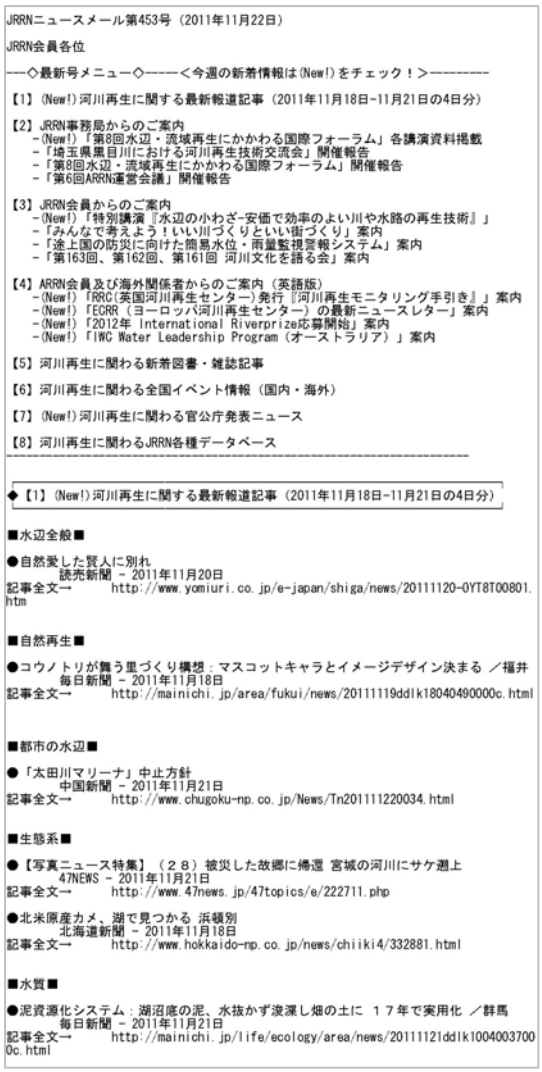
情報発信(ニュースメール・ニュースレター)

JRRN ニュースメール

JRRN ニュースメールは、週 1～2 回の頻度で JRRN 会員向けに発行し、2011 年は計 99 回配信しました。

主なコンテンツとして、国内外における河川再生に関連する報道ニュース、JRRN 活動報告、JRRN 会員からの提供情報、ARRN 及び海外関係者からの提供情報、国内イベントや新刊書籍情報などで構成しています。

なお、すべてのバックナンバーは JRRN ウェブサイトで閲覧することが可能です。


JRRNニュースメール第453号（2011年11月22日）

JRRN会員各位

----◇最新号メニュー◇-----＜今週の新着情報は(New!)をチェック！＞---------

【1】(New!)河川再生に関する最新報道記事（2011年11月18日-11月21日の4日分）

【2】JRRN事務局からのご案内
- (New!)「第8回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」各講演資料掲載
- 「埼玉県黒目川における河川再生技術交流会」開催報告
- 「第8回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」開催報告
- 「第6回ARRN運営会議」開催報告

【3】JRRN会員からのご案内
- (New!)「特別講演『水辺の小わざ-安価で効率のよい川や水路の再生技術』」
- 「みんなで考えよう！いい川づくりといい街づくり」案内
- 「途上国の防災に向けた簡易水位・雨量監視警報システム」案内
- 「第163回、第162回、第161回 河川文化を語る会」案内

【4】ARRN会員及び海外関係者からのご案内（英語版）
- (New!)「RRC(英国河川再生センター)発行『河川再生モニタリング手引き』」案内
- (New!)「ECRR（ヨーロッパ河川再生センター）の最新ニュースレター」案内
- (New!)「2012年 International Riverprize応募開始」案内
- (New!)「IWC Water Leadership Program（オーストラリア）」案内

【5】河川再生に関わる新着図書・雑誌記事

【6】河川再生に関わる全国イベント情報（国内・海外）

【7】(New!)河川再生に関わる官公庁発表ニュース

【8】河川再生に関わるJRRN各種データベース

◆【1】(New!)河川再生に関する最新報道記事（2011年11月18日-11月21日の4日分）

■水辺全般■

●自然愛した賢人に別れ
読売新聞 - 2011年11月20日
記事全文→ http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/shiga/news/20111120-OYT8T00801.htm

■自然再生■

●コウノトリが舞う里づくり構想：マスコットキャラとイメージデザイン決まる ／福井
毎日新聞 - 2011年11月18日
記事全文→ http://mainichi.jp/area/fukui/news/20111119ddlk18040490000c.html

■都市の水辺■

●「太田川マリーナ」中止方針
中国新聞 - 2011年11月21日
記事全文→ http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn201111220034.html

■生態系■

●【写真ニュース特集】（２８）被災した故郷に帰還 宮城の河川にサケ遡上
47NEWS - 2011年11月21日
記事全文→ http:/www.47news.jp/47topics/e/222711.php

●北米原産カメ、湖で見つかる 浜頓別
北海道新聞 - 2011年11月18日
記事全文→ http://www.hokkaido-np.co.jp/news/chiiki4/332881.html

■水質■

●泥資源化システム：湖沼底の泥、水抜かず浚渫し畑の土に １７年で実用化 ／群馬
毎日新聞 - 2011年11月21日
記事全文→ http://mainichi.jp/life/ecology/area/news/20111121ddlk1004003700c.html

JRRN ニュースメールのサンプル（抜粋）

JRRN ニュースメール　バックナンバーURL:
http://www.a-rr.net/jp/info/letter/newsmail/

JRRN ニュースレター

過去１ヶ月間の JRRN 活動概要、JRRN 会員からの提供情報や寄稿記事、JRRN が取組む研究活動紹介、また今後開催される河川再生関連行事等をとりまとめ、JRRN ニュースレターとして月 1 回の頻度で配信しました。

すべてのバックナンバーは JRRN ウェブサイトで閲覧することが可能です。

JRRN ニュースレターのサンプル（抜粋）

2011 年（1 月号～12 月号）　寄稿記事タイトル一覧

- 水辺からのメッセージ（No.20～31）
  【岡村幸二様・国土文化研究所特任研究員】
- 「台湾河川再生ネットワーク（TRRN）」ホームページリニューアルのご案内（No.43）
  【王淑如 Wang Shu-ju・TRRN 事務局員】
- 東京都 勝島運河をきれいに　水質改善実験中！（No.44）
  【大堀照生様・イービストレード株式会社】
- 韓国水文水資源学会年次総会に出席して（No.48）
  【伊藤一正様・ARRN 情報委員/株式会社建設技術研究所】
- 第 4 回いい川・いい川づくりワークショップ(2011 年 9 月 24-25 日)に参加して（No.53）
  【坂本貴啓様・筑波大学大学院博士前期課程】
- 第 14 回国際河川シンポジウム参加報告（9/26-29:豪ブリスベン開催）（No.53）
  【都筑良明様・島根大学汽水域研究センター協力研究員】
- 吉川先生のこと（No.53）
  【佐合純造・JRRN 事務局長】

※寄稿頂きました皆様、どうもありがとうございました。

JRRN ニューズレター　バックナンバーURL:
http://www.a-rr.net/jp/info/letter/newsletter/

会員交流機会の提供(JRRN 河川環境ミニ講座)

河川再生に関わる国内外の最新の知見の共有ならびに専門家と JRRN 会員との交流促進を目的に、「JRRN 河川環境ミニ講座」を 2011 年は計 2 回開催しました。

第 8 回河川環境ミニ講座「韓国と日本の魚道整備」(2011 年 8 月 31 日)

○講師 1：Jin-Hong Kim 氏
（韓国・中央大学校建設環境工学科教授）
○講師 2：小川豪司氏
（財団法人リバーフロント整備センター研究員(当時)）

韓国・金教授の講演の様子

講演では、はじめに、韓国で現在実施されている全国魚道実態調査及びデータベース構築に関わる取組（研究予算：約 1 億 3000 万円）について金教授よりご講演頂き、続いて日本における魚道整備の歴史、タイプ、全国整備状況、及びその改善事例について豊富な写真とともに小川研究員よりご紹介頂きました。

講演後の質疑応答では、金教授を含む韓国からの魚道視察団 8 名、及び小川講師や JRRN 会員との活発な意見交換が行われました。

日本・小川研究員の講演の様子

第 9 回河川環境ミニ講座「中国における河川生態系の変化と自然再生の動向」(2011 年 12 月 22 日)

○講師：李建華　氏
（中国・同済大学教授、東京大学特任教授、JRRN 会員）

李教授の講演の様子

講演では、はじめに中国全土における経済発展と環境問題についての概要をご紹介頂き、続いて水環境汚染の現状や生態系への影響などについてご説明頂きました。また、悪化した水環境の改善に向けた中国における取組や、具体的な河川再生の事例紹介、更には第 12 次五カ年計画における河川事業での自然再生に向けた方向性についても詳しく解説を頂きました。

李教授との意見交換の様子

なお、本ミニ講座では、会員アンケート結果を反映して初めて平日夕方に開催し、年末の多忙の時期にも関わらず定員を上回る多くの方々にご参加頂きました。

技術交流(研修受入、意見交換会)

JRRN では、河川再生に関わる日本で培った知見を普及するための技術研修に協力したり、また海外における取組みや課題等について意見交換する技術交流会を JRRN 会員公開行事として開催しています。

中国・中国湖北省水利庁　(2011 年 1 月 11 日～13 日)

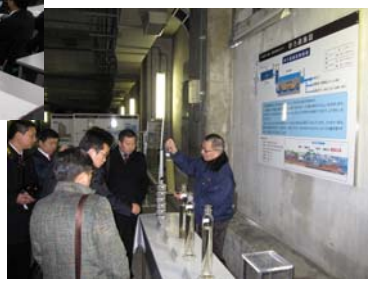
JRRN 意見交換会後の記念撮影

中国湖北省水利庁の副庁長を団長とする河川視察団（8 名）が来日し、2011 年 1 月 11 日（火）～13 日（木）の 3 日間、JRRN 事務局及び国内関係機関・現地施設管理者・専門家との交流が行われました。各視察先では、河川管理や水環境改善の取組みを中心に視察団と受入先関係者との活発な意見が交わされ、JRRN 事務局が各視察先との調整役を担いました。

綾瀬川及び桑袋浄化施設見学

公益社団法人日本河川協会
との意見交換

池田駿介東工大名誉教授
との意見交換



落合水再生センターの見学風景

世界銀行主催・地方政府指導者育成研修（都市の水辺再開発コース）　(2011 年 5 月 30 日)

世界銀行等が主催するアジア途上国の地方政府職員のスキル向上を目的とした研修行事が「都市部水辺の再開発」をテーマに開催され、JRRN 事務局より、北九州市を流れる紫川の再生事例、また東京都を流れる隅田川の再生事例について、再生前後の様子や再生に至る経緯等について説明を行いました。

テレビ回線を通じた研修の様子

台湾･市民大学全国促進会視察団　(2011 年 8 月 26 日)

台湾から市民大学全国促進会視察団（約 20 名）が来日し、市民による川づくりや合意形成に関わる話題を中心に意見交換を行いました。本視察団一行は、台湾で川づくりやまちづくりに携わる地域活動団体、市民ネットワーク、民間企業、公益法人等で構成され、日本における官民連携の川づくりや市民活動の状況を学ぶことを目的に、2010 年に引き続き来日されました。意見交換を含む約 3 時間に及ぶ活発な交流を通じ、日台の川づくりにおける市民参加や合意形成の取組について相互に情報交換をすることができました。

技術交流会終了後の記念撮影

調査研究 及び 出版

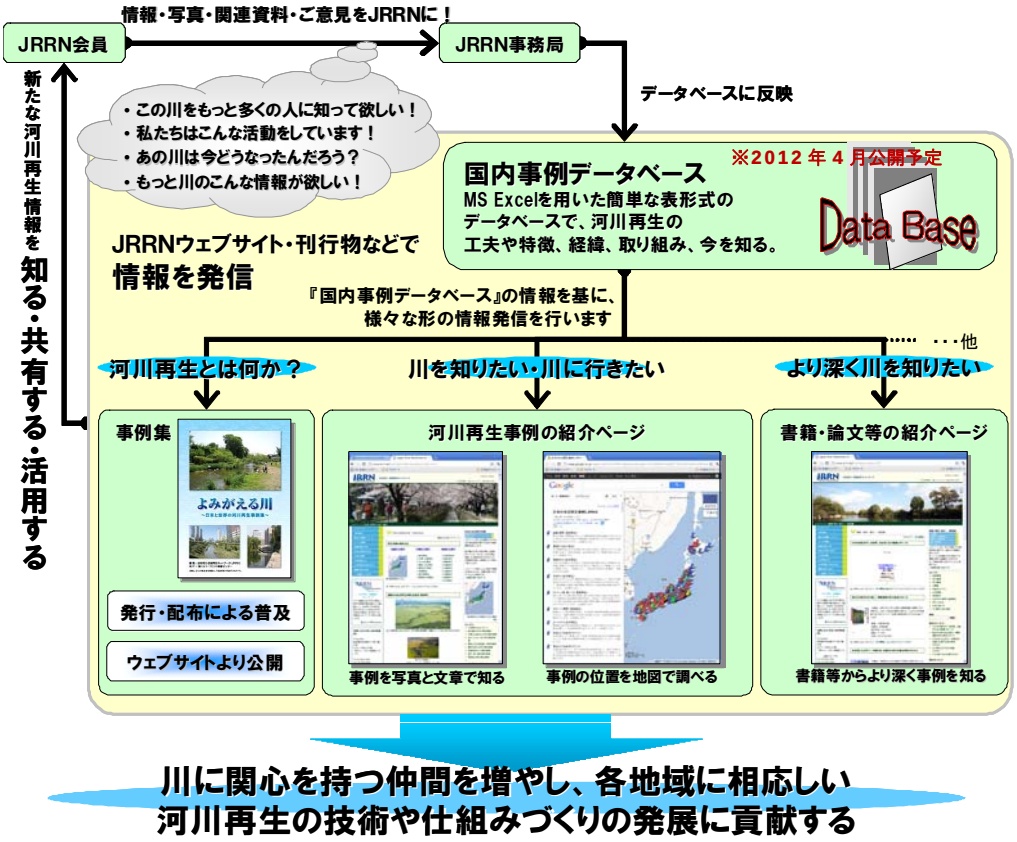
JRRN では、国内外の河川再生事例の収集・分析を行うとともに、これら成果を「よみがえる川～日本と世界の河川再生事例集」として取りまとめ、国内で活動する方々に役立てて頂くことを目指し広く普及を図りました。また、JRRN 河川環境ミニ講座等の主催行事成果は講演録として蓄積し、JRRN ウェブサイト等を通じて紹介しています。

河川再生事例の収集・分析（調査研究）

約 230 の国内再生事例を JRRN ウェブサイトで紹介し、それら事例は、地図、再生の目的別、更には地域から検索することが可能です。

また 2011 年は、JRRN 会員アンケートなどでの利用者ニーズを踏まえ、これまで蓄積した河川再生事例に関わる情報のデータベース化に取組みました。本データベースは、2012 年 4 月頃を目標に JRRN ウェブサイト上に公開し、今後は JRRN 会員皆様の情報提供を得ながら、様々な目的で活用できるデータベースに仕上げていく予定です。

JRRN ウェブサイト内の再生事例紹介ページ:
http://www.a-rr.net/jp/waterside/



JRRN が目指す河川再生事例の集積～普及～活用までのイメージ

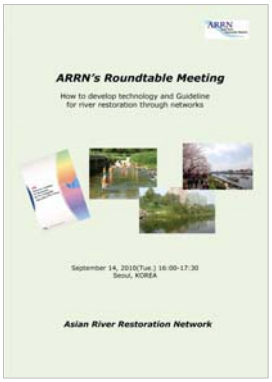
講演録等の成果蓄積 及び 普及（出版）

JRRN 固有の知的財産を蓄積し、広く国内外に活用頂くことを目的として、様々な JRRN 活動の成果を web 版冊子として取りまとめ、JRRN ウェブサイトを通じて普及する取組みを行いました。

2011 年　JRRN 刊行物ラインアップ

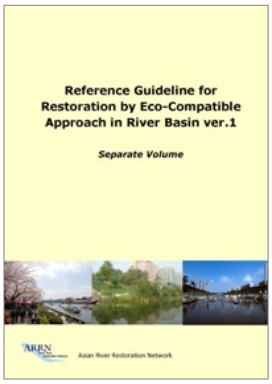
ARRN ラウンドテーブル会議討議録

2010 年 9 月に韓国ソウル市にて開催しました公開座談会「ネットワーク活動を通じ河川再生の技術とガイドラインを如何に向上させるか？」の討議録（日本語版・英語版）を 2011 年 1 月に発行しました。



アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.1 別冊事例集

アジア及び欧米の河川・流域再生事例の概要を紹介した「河川再生事例集（英語版）」を、日中韓の各 RRN 事務局及び ARRN 組織会員であるタイ天然資源省水資源局の協力を得て 2011 年 1 月に発行しました。

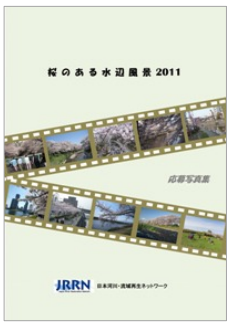


よみがえる川～日本と世界の河川再生事例集

国内外の河川再生事例をとりまとめた JRRN 編集「よみがえる川～日本と世界の河川再生事例集～」を 2011 年 3 月に発刊し、また「6 月 5 日・環境の日」に合わせて電子版を JRRN ウェブサイトに公開しました。

桜のある水辺風景 2011　写真集

JRRN 会員の方々よりご応募頂きました 2011 年の桜の水辺写真をとりまとめた桜の水辺風景写真集を 2011 年 6 月に発行しました。



JRRN 河川環境ミニ講座　講演録

第 7 回及び第 8 回河川環境ミニ講座の講演と質疑応答の様子を講演録として取りまとめ、JRRN ウェブサイトを通じ公開しました。

第 8 回水辺･流域再生に関わる国際フォーラム講演録

2011 年 11 月 11 日（金）に開催しました ARRN/JRRN 主催「第 8 回水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム」（河川整備基金助成事業）の講演と質疑応答の様子を講演録として取りまとめ、広く普及を図りました。

JRRN 発刊物紹介ページ: http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/

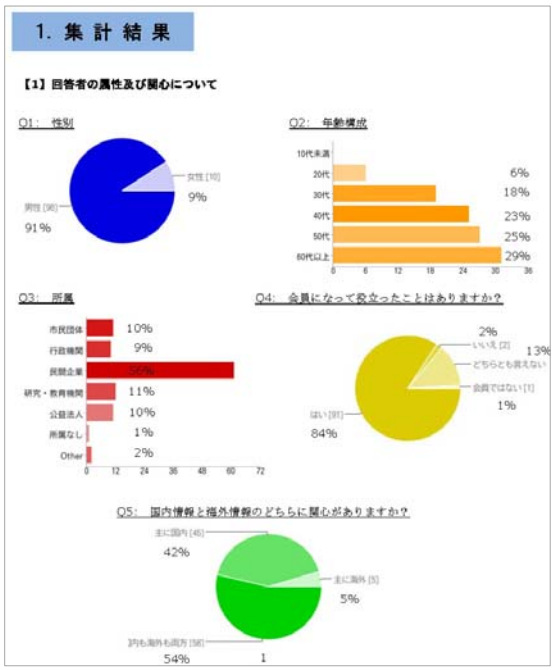
組織運営 及び 広報

河川再生の担い手のニーズを踏まえた活動を展開するため、2011 年は 2 回の JRRN 会員向けアンケート調査を実施し、その結果を諸活動に反映し取組みました。また、国内外に JRRN 及び ARRN の活動を広めていくことを目的に、本分野の関係者が集まる国内外行事や学術会議等に積極的に参加し、論文発表などを通じてネットワークの広報及び参加者との信頼関係構築を図りました。

JRRN 会員向けアンケート調査（第 1 回：2011 年 2 月実施、第 2 回：2011 年 6 月実施）

2011 年 2 月 10 日（木）～2 月 21 日（月）にかけて、ネットワークの更なる活性化を目的とした「JRRN 会員向けアンケート調査」を実施し、108 名の方々より貴重なご回答を頂きました。頂戴した意見を基に、JRRN 情報発信方法や情報共有基盤の改善、また主催行事の新たな開催方法などを試行しました。

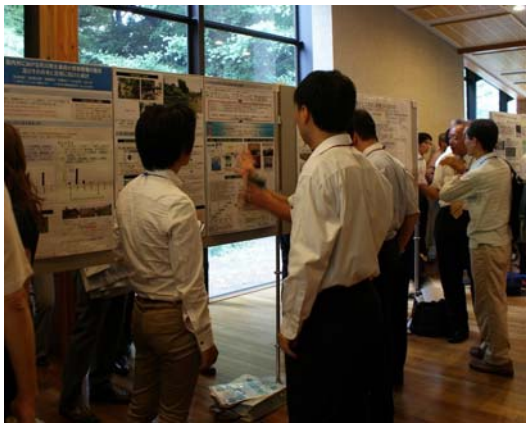
また、2011 年 6 月 28 日（火）～7 月 9 日（金）にかけては、河川再生事例整備の更なる充実化を目的に「JRRN 河川再生事例集に関するアンケート調査」を行い、68 名の方々より貴重なご意見を頂きました。本アンケートで頂いたご意見は、JRRN の河川再生事例整備に活用するとともに、2012 年に発行を計画している「よみがえる川 ver.2」の品質向上にも活かしていきます。



JRRN アンケートの集計結果サンプル

河川技術シンポジウム 2011（2011 年 7 月 23～24 日）

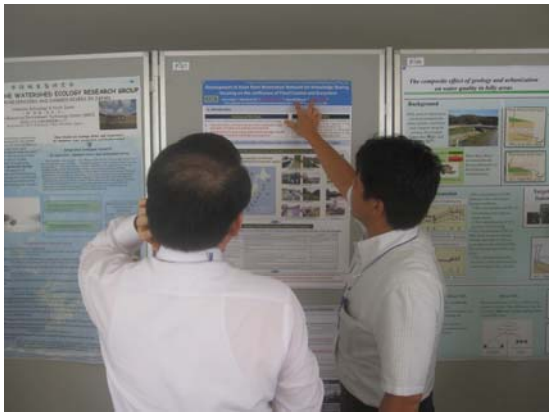
「新しい河川整備･管理の理念とそれを支援する河川技術」をテーマとした「2011 年度・河川技術に関するシンポジウム」において、JRRN が現在取り組む河川再生事例整備活動を中心に「国内外における河川再生事例の情報整備の現状及びその共有と活用に向けた検討」と題した論文を発表致しました。



ポスター発表の様子

第 9 回 日韓セミナー：エコシステムアプローチによる河川・流域の自然復元（2011 年 9 月 15 日）

「エコシステムアプローチによる河川・流域の自然復元」を主テーマに、第 9 回目となる日韓交流セミナーが「応用生態工学会　第 15 回金沢大会」の分科会として石川県金沢市で開催され、「Development of Asian River Restoration Network for Knowledge Sharing -focusing on the confluence of Flood Control and Ecosystem」と題した論文発表を行いました。日韓の河川再生に関わる専門家との交流を通じ、ネットワークの今後の展開に対する様々な助言を頂きました。



韓国水資源協会会長・HyoSeop WOO 氏との交流

ARRN(アジア河川・流域再生ネットワーク)活動報告 2011

ARRN 概要紹介

ARRN 設立の経緯

2006 年 3 月にメキシコシティで開催された「第 4 回世界水フォーラム」の自然再生に関する日本、中国及び韓国 3 ヶ国合同分科会において、河川・流域再生の情報交換ネットワークやデータベースの構築、及びアジア地域の特性に対応した河川・流域再生ガイドライン（技術指針）の作成に向けたアジア諸国連携の必要性が提唱されました。この合同分科会での提言を引き継ぐ形で、2006 年 11 月に東京で開催された『第 3 回水辺・流域再生に関わる国際フォーラム』の場で、「アジア河川・流域再生ネットワーク」(ARRN: Asian River Restoration Network)が日中韓の関係機関をメンバーとして設立されました。

ARRN 設立式典の様子

ARRN 設立経緯の詳細紹介ページ:
http://www.a-rr.net/jp/info/letter/establish/

ARRN の目的

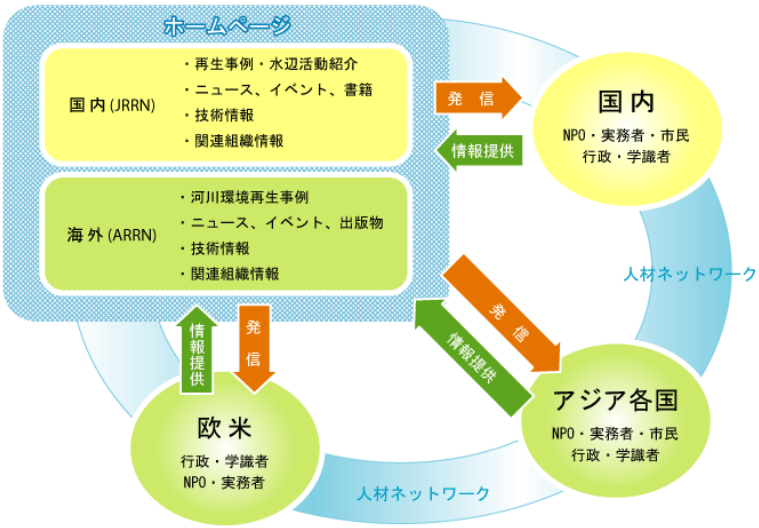
ARRN は、非政府組織としての中立の立場で、以下の二つを主な目的に、アジアの豊かな水環境の創造に寄与することを目指して活動しています。

- ホームページやイベント開催を通じ、アジア地域をはじめ世界各国の河川・水辺の再生に関する事例・情報・技術・経験等を、技術者・研究者・生態学者・行政担当者、そして市民で交換・共有する仕組みを構築すること。
- 類似した社会・自然環境を有するアジア・モンスーン地域で利用できる河川再生ガイドラインを構築し、ネットワーク参加者の知識・技術の向上を図ること。

ARRN の活動内容

ARRN は、主に次の活動を行っています。

- 河川再生の関連情報の Web サイトやニュースレター等による公開
- 河川再生をテーマとした国際フォーラムやワークショップの開催
- 河川再生に関するガイドラインの作成・普及
- 各国・地域内ネットワーク間での講師・専門家派遣、現地視察企画等の支援
- 河川再生に関る調査研究・出版・広報活動等



ARRN の活動全体イメージ

ARRN 組織体制

河川・流域再生ネットワーク（River Restoration Network）

ARRN は参加各国・地域のネットワークの連携で組織され、それら国・地域レベルのネットワークを「River Restoration Network メンバー（以下、RRN）」と総称します。各河川・流域再生ネットワークは各国・地域内での自由な活動が奨励されています。

個別組織会員（Non-RRN）

ARRN 運営に直接関与せず、ARRN 主催行事への参加やホームページの利活用、また ARRN への情報提供や ARRN 発刊物の共同制作等を担う者を「Non-RRN メンバー」と総称します。

運営会議（Governing Council）

ARRN の運営方針は各 RRN の代表者よりなる「運営会議」にて決定されます。運営会議は、会議で承認された議長（会長）により総括され、ARRN の年間活動計画等の決議を行います。各 RRN 代表者は運営会議の議員となり、参加国の全議員より「Governing Council」が構成されます。

常設委員会（Committee）

ARRN の将来ビジョン、活動内容、知識共有基盤の整備方策等を定めることを目的に情報委員会が、またアジアの国々に適したガイドラインをはじめとする河川・流域再生のための技術方策を提示することを目的とした技術委員会が設置されています。

事務局（Secretariat）

運営会議は「事務局」により開催され、事務局はこのほか、ARRN の活動を遂行します。2011 年 12 月現在、JRRN（日本河川・流域再生ネットワーク）が ARRN 事務局を担っています。

ARRN 会員(2011 年 12 月現在)

現在、河川・流域再生ネットワークとして 3 団体、また組織会員として 2 団体で構成されています。

河川・流域再生ネットワーク（River Restoration Network）

●日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
【事務局】（財）リバーフロント整備センター
【会員】　個人：約 540 人、団体：約 40 組織

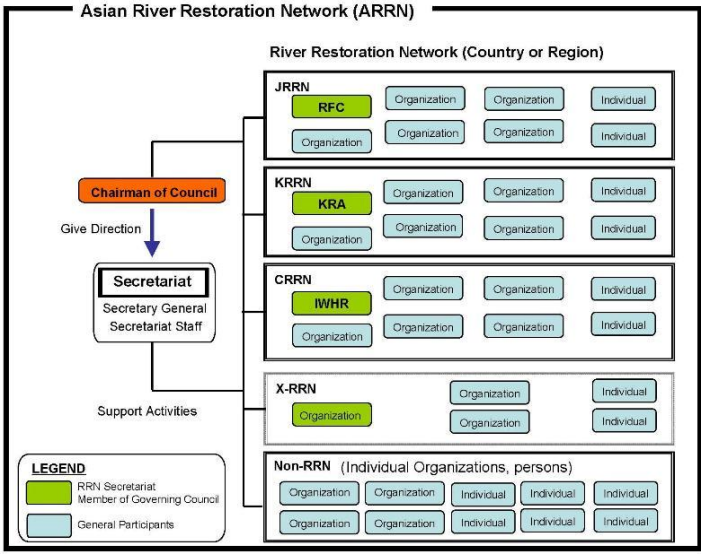
●韓国河川・流域再生ネットワーク(KRRN)
【事務局】　韓国河川協会(KRA)
【会員】　会員制度を 2012 年より開始予定

●中国河川・流域再生ネットワーク(CRRN)
【事務局】中国水利水電科学研究院
【会員】　個人：約 80 人、団体：約 10 組織

個別組織会員（Non-RRN）

・タイ天然資源環境省水資源局
（Department of Water Resource, Thailand）
・パキスタン連邦洪水委員会(FFC)
（Federal Flood Commission, Pakistan (FFC)）

ARRN 団体会員一覧ページ:
http://www.a-rr.net/jp/org//1852.html



ARRN の組織構造図

情報交換及び交流活動（国際フォーラム等）

第 8 回 水辺・流域再生にかかわる国際フォーラム（2011 年 11 月 11 日：東京）

河川再生に関わる諸外国の専門知識の交換と人的交流を目的として、2011 年 11 月 11 日（金）に『第 8 回水辺･流域再生にかかわる国際フォーラム～減災と環境保全の視点から都市河川再生を考える』を、河川整備基金の助成を受け、4 年ぶりに東京にて開催しました。

開会挨拶

ARRN 関係者での記念撮影

第8回 水辺･流域再生に関わる国際フォーラム

主催 アジア河川･流域再生ネットワーク(ARRN)
日本河川･流域再生ネットワーク(JRRN)

日時 2011年11月11日(金)
13:00～16:15(開場:12:30)

場所 東京大学農学部弥生講堂
(東京都文京区弥生1-1-1 ※裏面地図参照)

定員 200名(申込先着順)

参加費 無料

通訳 日英同時通訳

後援 (公社)日本河川協会／応用生態工学会／(財)河川環境管理財団
日本水フォーラム／(財)リバーフロント整備センター／(株)建設技術研究所
中国河川･流域再生ネットワーク(CRRN)
中国水利水電科学研究院(IWHR)
韓国河川･流域再生ネットワーク(KRRN)
韓国河川協会(KRA)／韓国建設技術研究院(KICT)
ヨーロッパ河川再生センター(ECRR)／英国河川再生センター(RRC)

減災と環境保全の視点から
都市河川再生を考える

プログラム
※プログラムは一部変更の可能性があります

13:00-13:05 開催挨拶
13:05-13:15 ARRNガイドラインver.2の趣旨及び内容紹介
13:15-14:30 ※各講演25分 2011年ブリスベン川洪水被害への対応、及び豪州政府が取り組む河川･湿地管理と再生
Alastair Mcharg
(オーストラリア･National Water Commission 水計画部長)
台湾における最近の都市河川再生の取組み
Shaohua Marko Hsu(台湾･淡江大学教授)
韓国における水辺環境再生のための技術開発
～連続ブロックシステムの事例から
Sukhwan Jang(KRRN事務局長/韓国大邱大学教授)
14:30-14:40 休憩
14:40-16:15 ※各講演25分 全体討議45分 汐河における河川再生
～洪水防御と生態復元に向けた氾濫原の再生
Aizhong Ding(北京師範大学教授)
流域治水～樋井川からのイノベーション
島谷幸宏(九州大学大学院教授)
全体討議(座長:玉井信行ARRN会長)
16:15 閉会

第 8 回 ARRN 国際フォーラム報告ページ：
http://www.a-rr.net/jp/info/letter/eventreport/2985.html

埼玉県黒目川における河川再生技術交流会（2011 年 11 月 12 日：埼玉県朝霞市）

「第 8 回水辺・流域に関わる国際フォーラム」にて講演・参加された海外関係者及び ARRN 関係者が埼玉県朝霞市を流れる黒目川を訪れ、河川を管理する埼玉県朝霞県土整備事務所、及び黒目川で河川環境改善活動に取組む「黒目川に親しむ会」の方々との交流行事を開催しました。本行事を通じ、治水と環境が両立する川づくりの実践の様子や、市民と行政の協働活動の具体的取組を学び、河川再生技術や合意形成などの話題を中心に活発な意見交換を行いました。

意見交換会

「黒目川に親しむ会」との交流

ECRR, RRC, TRRN, ARRC 等との相互交流

ARRN では、海外の河川再生ネットワークとも国際会議やメール等での情報交換を通じ交流を深め、河川再生に関わる最新の情報の相互共有を図っております。ARRN 会員以外で、以下の河川再生ネットワーク事務局との継続的情報交流を進めています。

ヨーロッパ河川再生センター

台湾河川再生ネットワーク

イギリス河川再生センター

オーストラリア河川再生センター

【ARRN　水辺・流域再生に関わる国際フォーラム　第 1 回～第 8 回講演タイトル一覧】

第 1 回フォーラム（2005 年 1 月 19 日　東京）
【講演 1】韓国・清渓川再生事業における水文学的考察（韓国・建設技術研究院 KICT　Dr. Sung Kim）
【講演 2】都市河川における浄化と美化：シンガポールの経験（シンガポール貿易省電気水道局　Mr. Yap Kheng Guan 他）
【講演 3】中国・蘇州河再生事業の紹介（中国・上海蘇州河環境整備事業団本社　Dr. Ming Hua）
【講演 4】チェサピーク湾再生への歩み（米国・メリーランド州天然資源省　Dr. C Ronald Franks）
【講演 5】流域連携による河川再生：イギリス・マージ川流域キャンペーン（英国・マージ川流域キャンペーン　Mr. Mark Turner）
【講演 6】ヨーロッパ河川再生センター　－環境、経済、文化の持続可能なバランスに向けて（ECRR　Ms. Ute Menke）

第 2 回フォーラム（2005 年 10 月 27 日　東京）
【講演 1】中国・漢ロリバーフロント総合的洪水予防と環境改善と再生事業（中国・武漢市水務局　Dr. Jiang TieBing）
【講演 2】フィリピン・パシグ川マスタープラン（フィリピン・パシグ川再生委員会　Dr. Bingle H. B.Gutierrez）
【講演 3】米国・包括的エバーグレース再生プログラム（米国・南フロリダ水管理局　Mr. Paul A. Warner）
【講演 4】イタリアにおける河川再生における課題と今後の展開（イタリア河川再生センター　Mr. Giuseppe Dodaro）
【講演 5】マレーシアとインドネシアにおける河川流域イニシアティブの取組み（マレーシア・地球環境センター　Mr. Faizal Parish）
【講演 6】韓国における河川復元の事例（韓国・建設技術研究院 KICT　Dr. Hong-Kyu Ahn）

第 3 回フォーラム（2006 年 11 月 9 日　東京）
【講演 1】ヨーロッパの情報交換ネットワークの活用と河川政策の今（フィンランド環境研究所　Mr. Jukka Jormola）
【講演 2】三峡ダム事業向上のための環境に配慮した水文学的、水力学的研究調査プロジェクト（中国・IWHR　Dr. Wen Gen Liao）
【講演 3】韓国の河川再生について（韓国・建設技術研究院 KICT　Dr. Chang Wan Kim）
【講演 4】日本の河川再生について（国土交通省河川局河川環境課　原田昌直）
【講演 5】マレーシアにおける河川再生（マレーシア・灌漑排水局河川部　Ir. Weng Keong Cho）

第 4 回フォーラム（2007 年 11 月 30 日　東京）
【講演 1】隅田川を中心とした河川再生（東京都建設局　長島修一）
【講演 2】韓国の河川再生プロジェクト（韓国・建設交通部河川計画課　　Mr. Sukhyun Kim）
【講演 3】中国・長江における"四大家魚"の産卵環境再生について（中国・水利水電科学研究院 IWHR　Dr. Wen Gen Liao）
【講演 4】タイの河川・湿地再生に関する取組み（タイ・天然資源環境省　Mr. Surapol Pattanee）
【講演 5】ヨーロッパの河川再生に向けた政策と情報交換（イギリス河川再生センター　Mr. Martin Janes）

第 5 回フォーラム（2008 年 11 月 4 日　中国・北京）
【講演 1】河川環境改善に向けた生物・非生物的要因の関係分析～韓国京畿地方の事例（韓国・KICT　Dr. Chang Wan Kim）
【講演 2】河川・流域再生における自然共生型環境管理技術開発について～伊勢湾流域圏での取組み（名古屋大学　戸田祐嗣）
【講演 3】河川再生の理論と実践（中国・水利水電科学研究院　Prof. Dong Zheren）
【講演 4】中国における河川整備と再生（中国・清華大学水理科学・技術研究所 Prof. Wang Zhaoyin）
【講演 5】三峡プロジェクト運営管理における生態系が必要とする条件（中国科学院水資源省　Prof. Chang Jianbo）

第 6 回フォーラム（2009 年 9 月 29 日　韓国・ソウル）
【講演 1】川に流れを取り戻す　～日本における過去・現在・未来（筑波大学　白川直樹）
【講演 2】中国における河川再生の最新の取り組み（中国・水利水電科学研究院 IWHR　Dr. Dongya Sun）
【講演 3】河川工学と管理　～スイスにおける事例から（スイス・Canton Thurgau　Dr. Marco Baumann）
【講演 4】韓国 4 大河川再生事業の基本計画づくりについて（韓国・建設技術研究院 KICT　Dr. Hong Koo Yeo）

第 7 回フォーラム（2010 年 9 月 14 日　韓国・ソウル）
【講演 1】ヨーロッパにおける河川再生と ECRR（ヨーロッパ河川再生センター　Dr. Bart Fokkens）
【講演 2】黄河デルタにおける環境流量と生態再生の実践（中国・黄河水資源保護科学院　Dr. Xingong Wang）
【講演 3】GIS と野生動物自動追尾システムを用いた Individual Based Model の改良（土木研究所　傳田正利）
【講演 4】韓国における水圏生態再生のための技術の発展について（韓国・Eco STAR Project　Dr. Sunok Jeon）
【講演 5】生態的都市河川再生のための意思決定システムモデル（韓国・建設技術研究院 KICT　Dr. Weon Jae Kim）

第 8 回フォーラム（2011 年 11 月 11 日　東京）
【講演 1】2011 年ブリスベン川洪水被害対応及び豪州政府が取組む河川・湿地管理と再生（豪国・国家水管理局 Mr. Alastair Mcharg）
【講演 2】台湾における最近の都市河川再生の取組み（台湾・逢甲大学 Prof. Shaohua Marko Hsu）
【講演 3】韓国水辺環境再生のための技術開発～連続ブロックシステム事例（KRRN 事務局長/韓国・大眞大学教授　Prof. Sukhwan Jang）
【講演 4】汾河における河川再生～洪水防御と生態復元に向けた氾濫原の再生（中国・北京師範大学教授　Prof. Aizhong Ding）
【講演 5】流域治水～樋井川からのイノベーション（九州大学大学院　島谷幸宏）

第 1 回フォーラム

第 3 回フォーラム

第 5 回フォーラム

第 7 回フォーラム

技術整備（河川再生ガイドライン構築）

ARRN では、河川再生の手引きの作成を活動目的の一つの柱と位置づけ、日本、中国、韓国の専門家による協議を重ねながら、良好なアジアの河川環境再生に貢献できる手引きとして、「アジアに適応した河川環境再生の手引き」の作成と継続的な更新を進めています。

【「アジアに適応した河川環境再生の手引き」更新履歴】

2009 年 3 月	手引き ver.1	発行
2011 年 1 月	手引き ver.1 別冊事例編	発行
2012 年 2 月	手引き ver.2 （日本語版）	発行
2012 年 3 月	手引き ver.2 （英語版）	発行 ※予定

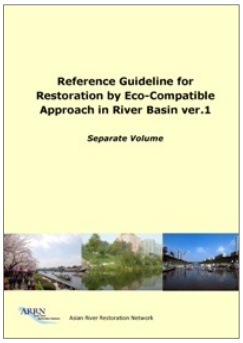
2011 年は、2009 年 3 月に公開した手引き ver.1 の参考資料として、諸外国の再生事例を紹介した「手引き ver.1 別冊事例編」を 1 月に発行しました。

また、ver.1 の更なる充実化を目指し、ARRN 技術委員会の指導のもと、日本・中国・韓国の各ネットワークの共同作業により、ver.2 への更新に向けた協議と編集作業を継続的に取組みました。

＜ver.2 における更新内容＞

- 河川再生に関する背景・経緯、課題及び対策をわかりやすく示した具体例を充実化。
- アジアの河川再生に関わる特徴の理解をより促すため、日本に偏らず、日本・中国・韓国等の写真を豊富に掲載。
- 欧米との比較からアジアの特徴を理解するため、欧米の河川再生に関わる情報源（ウェブサイト）を付録資料に掲載。

様々な関係者のご協力の結果、「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2」が 2012 年 2 月に完成し、JRRN ウェブサイト等を通じて国内外に普及を図るとともに、ver.3 での更なる改善作業を続けて参ります。



手引き ver.1 別冊事例編

手引き ver.2（日本語版）

1. はじめに 1
（1） なぜ河川環境の再生か？ 1
（2） 手引きの目的 2
（3） 手引きの対象者 2
（4） 手引き作成の経緯と位置づけ 2
2. 川の本質を知るために大切な視点 4
（1） 川の自然・歴史・文化の変遷を熟知する 4
（2） 川を流域で捉える 6
（3） 川の流れの変動を知る 7
（4） 川の役割と地域の関係者を把握する 8
3. 河川環境を再生する際の留意点 10
（1） 川の特徴と課題を踏まえた再生目標を設定する 10
（2） 流域の視点から再生を計画する 21
（3） 川の流れの変動を踏まえた再生を考える 22
（4） 地域の関係者と連携して再生を進める 23
4. 良好な河川環境を再生するための方策 24
（1） 河川環境再生に向けた方策の概要 24
（2） 川の本質を見極めるための調査・研究 25
（3） 川に対する流域住民の意識形成 28
（4） 継続可能な活動とするための合意形成 30
（5） 健全な水質と水量の確保 32
（6） 賑わいのある水辺空間・親水空間の形成 35
（7） 川が本来持つ自然環境の再生 38
5. 河川環境を再生した取組み 41
（1） 中国における河川再生事例 41
（2） 韓国における河川再生事例 43
（3） 日本における河川再生事例 46
付録 1. 既存の技術指針一覧（日本国内） 49
付録 2. 河川再生の欧米情報源一覧 51
手引き ver.2（日本語版） 目次

河川再生事例集（英語版）掲載ページ：

http://www.a-rr.net/jp/info/letter/publication/

ARRN河川・流域再生ガイドラインについて

(1) 背景

ARRN設立の契機となった「第4回世界水フォーラム（2006年3月）」分科会において、アジアの河川・流域再生に関わる情報共有基盤整備と合わせ、河川・流域再生ガイドライン（技術指針）構築の必要性が提言された。

“類似した自然・社会環境を保有するアジア・モンスーン地域として、河川環境再生のガイドラインを構築することが緊急の課題である。”

この提言に基づき、ARRNが保有するネットワークを活用し”アジア河川・流域再生ガイドライン”の作成と更新及びその普及をARRN活動の機軸と位置づけ継続的に取組んでいる。

(2) 目的

アジア・モンスーン地域に相応しい河川・流域再生の方法論の確立を目的とする。

(3) 顧客・利用者

河川・流域再生活動に関わる一般市民（＝非専門家）を対象として作成する。

(4) 言語

英語を言語としてアジア河川・流域再生ガイドラインを発行する。また、各RRNが、母国語（中国語・韓国語・日本語）への翻訳、及び自国での普及の責任を負う。

(5) 作成担当

ARRN技術委員会監修の下で、ARRN事務局及び各RRN事務局が共同で実施する。

組織運営(運営会議･委員会活動)

ARRN 運営会議メンバー(2011 年 12 月現在)

ARRN
・会長：玉井信行（金沢学院大学、前IAHR会長）
・事務局長：佐合純造（財団法人リバーフロント整備センター）

CRRN: 中国河川・流域再生ネットワーク
・事務局長：Dongya Sun（水利水電科学研究院 IWHR）
・情報委員：Wengen Liao, Chong Li（IWHR）
・技術委員：Hao Wang, Kewang Tang（（IWHR）

KRRN: 韓国河川・流域再生ネットワーク
・会長：Bong Hee Lee （株式会社三安 Saman）
・情報委員：Jeong Seok Yang（国民大学）, Jin Chul Joo（建設技術研究院 KICT）
・技術委員：Hyun Han Kwon（全北大学）, Moonhyeong Park（建設技術研究院 KICT）

JRRN: 日本河川・流域再生ネットワーク
・事務局長：佐合純造（財団法人リバーフロント整備センター）
・情報委員：伊藤一正（株式会社建設技術研究所）
・技術委員：白川直樹（筑波大学）

各 RRN 事務局メンバー(2010 年 12 月現在)

ARRN/JRRN 事務局
＜事務局長＞
佐合純造（財団法人リバーフロント整備センター）
＜事務局員＞
木村達司（株式会社建設技術研究所）
伊藤将文（財団法人リバーフロント整備センター）
後藤勝洋（財団法人リバーフロント整備センター）
和田　彰（株式会社建設技術研究所）

CRRN 事務局
＜事務局長＞
Dongya Sun（中国水利水電科学研究院 IWHR）
＜事務局員＞
Jinyong Zhao（中国水利水電科学研究院 IWHR）
Peng Jing（中国水利水電科学研究院 IWHR）
Iris Zhou（中国水利水電科学研究院 IWHR）

KRRN 事務局
＜事務局長＞
Suk Hwan Jang（大眞大学）
＜事務局員＞
Hong Kyu Ahn（建設技術研究院 KICT）
Hong Koo Yeo（建設技術研究院 KICT）
Jeong Seok Yang（国民大学）

第 6 回 ARRN 運営会議（2011 年 11 月 11 日：東京）

第 6 回 ARRN 運営会議が、東京大学弥生講堂会議室にて 2011 年 11 月 11 日（金）に開催されました。

会議冒頭にて、これまで 1 年間の ARRN 及び ARRN を構成する日中韓三カ国のネットワーク活動を報告し、その後、ARRN の更なる発展に向けた組織体制のあり方やルールづくり、更に今後 1 年間のネットワーク全体での活動計画について審議と意見交換を行いました。

第 6 回 ARRN 運営会議の様子

「第 6 回 ARRN 運営会議」開催報告掲載ページ:
http://www.a-rr.net/jp/info/letter/report/2984.html

ARRN 情報委員会及び技術委員会

ARRN の二つの常設委員会において、2011 年から、日本（JRRN）、中国（CRRN）、韓国（KRRN）それぞれの委員による e-mail 形式による委員会協議を試行しました。

ARRN 情報委員会

情報委員会では、2011 年 7 月及び 10 月の二回に渡り、ARRN 国際フォーラム企画、第 6 回運営会議での審議事項、また第 6 回世界水フォーラムなど国際行事参加方針等について協議を行いました。

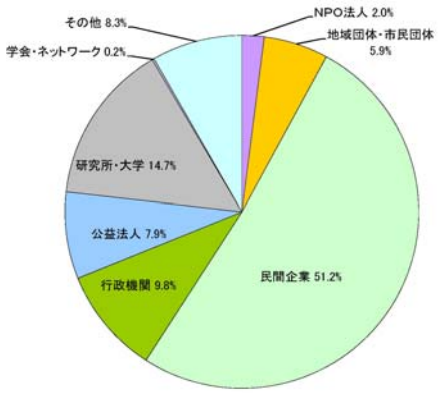
ARRN 技術委員会

技術委員会では、2011 年 8 月及び 10 月の二回に渡り、「アジアに適応した河川環境再生の手引き ver.2」の作成・更新・普及等についての協議を行いました。

JRRN 組織概要

会員構成(2011 年 12 月現在)

[個人会員]　540名



個人会員の内訳

[団体会員]　41 団体

市民団体・NPO等54%
民間企業 34%,行政機関/公益法人等12%

JRRN 団体会員メンバー *(五十音順)*

（NPO・地域団体・市民団体）
- ○ いわていい川づくり研究会
- ○ NPO法人印旛沼広域環境研究会
- ○ NPO法人おおいた環境保全フォーラム
- ○ NPO法人奥天降霧島
- ○ 金目川水系流域ネットワーク
- ○ 川と水辺を楽しむプロジェクト
- ○ 神田川ネットワーク
- ○ NPO法人京都発・竹・流域環境ネット
- ○ 埼玉県河川環境団体連絡協議会
- ○ 認定NPO法人自然環境復元協会
- ○ 隅田川市民交流実行委員会
- ○ たんぽぽ音楽事務所
- ○ NPO法人地球環境カレッジ
- ○ 東海タナゴ研究会
- ○ NPO法人遠野エコネット
- ○ 名古屋かわを考える会
- ○ まきのはら水辺の楽校
- ○ 真駒内川水辺の楽校
- ○ NPO法人まちづくりネット熊取
- ○ NPO法人水・環境ネット東北
- ○ NPO法人水辺に遊ぶ会
- ○ NPO法人流域調整室

（民間企業）
- ○ イービストレード株式会社
- ○ 株式会社川崎測量
- ○ 環境工学株式会社
- ○ 株式会社建設技研インターナショナル
- ○ 株式会社コミュニティ・ディベロップメント・パートナーズ
- ○ 株式会社ストリームグラフ
- ○ 株式会社大洋土木コンサルタント
- ○ 株式会社地圏環境テクノロジー
- ○ 株式会社ディーリンク
- ○ 株式会社ドーコン　水工事業本部
- ○ ナカシマプロペラ株式会社
- ○ 日建工学株式会社
- ○ 松江土建株式会社　環境部
- ○ 株式会社吉村伸一流域計画室

（行政機関・公益法人）
- ○ 倉敷市
- ○ 公益社団法人日本河川協会
- ○ 独立行政法人水資源機構
- ○ 財団法人リバーフロント整備センター

（研究機関・大学・学会等）
- ○ 応用生態工学会

会員サービス

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

(1)河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1～２回メール配信されます。
(2) JRRN 活動内容や会員寄稿記事等を集約した「JRRN ニュースレター」が毎月配信されます。
(3)講演会や刊行物等の情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
(4)国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
(5)JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
(6) ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

JRRN 会員特典一覧表（団体会員・個人会員）

	JRRNが提供するサービス	JRRN 団体会員	JRRN 個人会員	非会員（一般の方）
1	ホームページへのアクセス及び各記事へのコメント入力※1	◎	◎	◎
2	ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載※2	◎	◎	◎
3	ニュースメール（週2回）の配信※3	◎	◎	×
4	Newsletter（毎月）及び年次報告書（年1回）等の発刊案内メールの配信※3	◎	◎	×
5	JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加※4	◎	◎	×
6	国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援※5	◎	◎	×
7	ホームページ「最近の話題・ニュース」及びニュースメール「会員提供情報」欄で団体が関わる行事や出版、技術や製品等の案内の掲載※6	◎	△※7	×
8	ホームページ「会員登録」「人・組織のつながり」欄及び年次報告書内で団体名の掲載	◎	×	×
9	ARRN活動に関連する英語ニュース（ARRN Newsletter等）の不定期配信※8	◎	×	×
10	JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援※9	◎	×	×

上記表内の※印の詳細は JRRN ホームページをご参照下さい：　http://www.a-rr.net/jp/info/member.html

日本河川・流域再生ネットワーク

JRRN Annual Report 2011（平成 23 年　JRRN 活動報告）

発行日	2012 年 3 月 1 日
発　行	日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）
事務局（連絡先）	〒104-0033　東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 新川中央ビル 7 階　財団法人リバーフロント整備センター内 Tel: 03-6228-3862　Fax: 03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net,　URL: http://www.a-rr.net/jp/
事務局員	佐合純造（事務局長）・木村達司・伊藤将文・後藤勝洋・和田彰

JRRN は、「アジア河川・流域再生ネットワーク構築と活用に関する共同研究」の一環として、（財）リバーフロント整備センターと（株）建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

2012.3 版